

【短報】石垣島における日本未記録のケシキスイ

筆者は石垣島において、日本からは従来未記録であったケシキスイ科の一種を採集しているので報告する。同定の確認をして頂き、種々助言も頂いた久松定智氏に深く感謝申し上げる。

オオメコゲチャセマルケシキスイ (和名新称)

Amphicrossus hirtus Kirejtshuk, 2005

1♂, 沖縄県石垣島米原, 24. VIII. 2001; 1♂, 同, 16. VIII. 2005, いずれも筆者採集・保管。

上記の個体は次のような形態の特徴をもち、Kirejtshuk (2005) による本種の原記載に一致した。体長は 5.0–5.5 mm。複眼は大きく、その個眼は複眼間の点刻よりも大きい。触角末端節は大きく幅広い。前胸背板と上翅には黄褐色の被毛に混じてより長く太い黒褐色の剛毛が散在し、やや不規則な列状に並ぶ。雄の上翅会合部のほぼ中央に毛房をもつ。雄の腹部第7腹板(可視第5腹板)後縁の付属片が接続する部分はほとんど突出しない。



図1. オオメコゲチャセマルケシキスイ (石垣島産) 全形図。

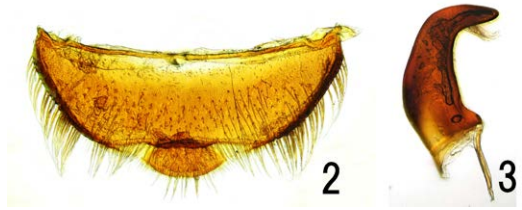


図2-3. 腹部第7腹板(2)と雄交尾器包片(3)。

雄交尾器包片に毛束をもつ。ただし、包片の形状には原記載の図とは若干の相違が認められた。なお、上翅には明色の斑紋がみられるが、原記載によれば体背面の色彩変異は大きく、無紋の個体もあるという。

タイプ産地のスラウェシをはじめ、タイ、カンボジア、ボルネオ島、パラワン島、台湾など東南アジア各地から記録されているが(パラタイプにインド産も含まれているが、分布には疑問符を付されている)、これまで日本からの報告はなかったようである。

日本における同属の種としては、本土域からホソコゲチャセマルケシキスイ *A. hisamatsui* Jelínek, 1993, コゲチャセマルケシキスイ *A. japonicus* Reitter, 1873, ナガコゲチャケシキスイ *A. lewisi* Reitter, 1873 の3種が知られ(久松, 2007), そのうち前2種は丸味の強い体型や雄の上翅会合部に毛房をもつ点で本種と共通しているが、前述のような複眼や体背面の剛毛などの顕著な特徴により識別は容易である。

なお、上記の石垣島の記録は共に夜間灯火に飛来した個体であり、タイプシリーズの採集記録の多くがライトトラップによるものであることや、複眼の形態からも夜間活動性の種と思われる。

引用文献

- 久松定智, 2007. ケシキスイ科. 新訂 原色昆虫大圖鑑 第II巻 (甲虫篇), pp. 223–231, pls. 98–100, 北隆館.
Kirejtshuk, A. G., 2005. On the fauna of Nitidulidae (Insecta, Coleoptera) from Taiwan with some taxonomical notes. *Annales historico-naturales Musei nationalis hungarici*, 97: 51–113.

(齋藤 理 223-0062 横浜市港北区日吉本町 5-31-11)